

# ESDに関するユネスコ世界会議について

●  
文部科学省国際統括官付



# I 持続可能な開発のための教育(ESD) について

## 1. 「ESD(持続可能な開発のための教育)」とは？

ESD=Education for Sustainable Developmentの略。

持続可能な社会の担い手を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育。

## 2. 「国連ESDの10年」(UNDESD)について

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
  - ・ 2005~2014年の10年
  - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
  - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(愛知県・名古屋市/岡山市)



## Ⅱ ESDに関するこれまでの我が国の取組及び今後の予定

### (1)これまでの取組

- 2005年 内閣官房に関係省庁連絡会を設置
- 2006年 DESD国内実施計画を策定
- 2011年 DESD国内実施計画を改定
- 2014年10月9日 ジャパンレポートの完成・公表

### (2)今後の予定

- 2014年11月4日～12日 ESDに関するユネスコ世界会議
- 2014年11月13日 ESDに関するユネスコ世界会議フォローアップ会合
- 2014年度中 国内実施計画の見直し

### ジャパンレポートについて

ESDの10年の提案国として、また、来年の「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催地国として、国内の取組を喚起するとともに、2015年以降の諸外国における取組の参考としてもらうため、「わが国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」(平成18年連絡会議決定。平成23年改訂。以下、「実施計画」という。)に基づく取組・成果及び国内の優良事例を、円卓会議の実施により関係者からの意見を聴取しつつ取りまとめたもの。「第1部 10年間の日本の成果と課題」「第2部 日本の主な推進体制と各主体による取組」「第3部 日本の優良事例 30例」の3部構成。

## Ⅲ これまでの文部科学省の取組

### ① 教育振興基本計画について

2008年 第一期教育振興基本計画

ESDを我が国の教育の在り方にとって重要な理念の一つとして位置付け

2013年 第二期教育振興基本計画

より明確にESDの推進を位置付け

〈第二期計画における主な記載〉

第2部今後5年間に実施すべき教育上の方策

I 四つの基本的方向性に基づく方策

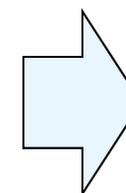
1. 社会を生き抜く力の養成

(4)生涯の各段階を通じて推進する取組

基本施策11 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進

【主な取組】11-1 現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進

ユネスコスクールの質量両面における充実等を通じ地球規模での持続可能な社会の構築に向けた教育(持続可能な開発のための教育:ESD)を推進する。



「生きる力」  
を育むこと  
と軌を一に  
するESDの  
取組

## ② 学習指導要領

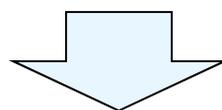
〈学習指導要領における記載の例〉

○中学校 社会 地理的分野

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などに関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

○中学校 理科 第一分野及び第二分野

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会を作ることが重要であることを認識すること。

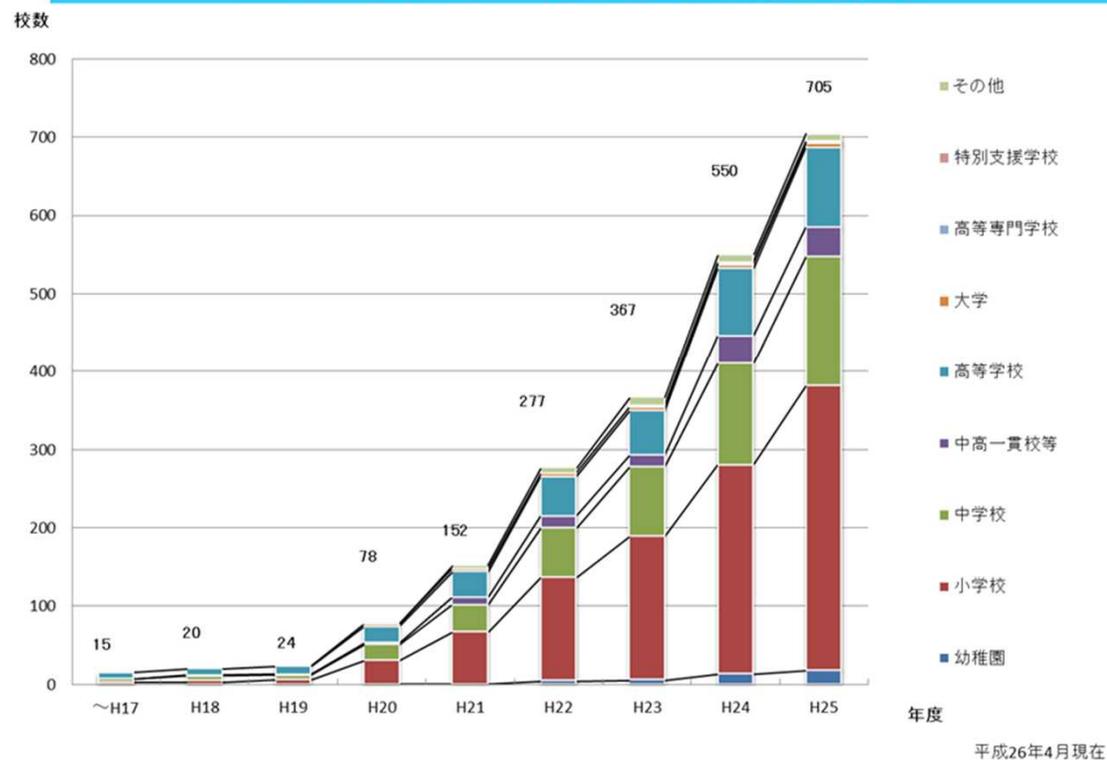


総合的な学習の時間を活用したESDの取組事例が多数

### ③ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け拡充

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校

#### ユネスコスクール加盟校数の推移



○文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け、その拡充に努めており、2014年4月現在で705校まで増加。

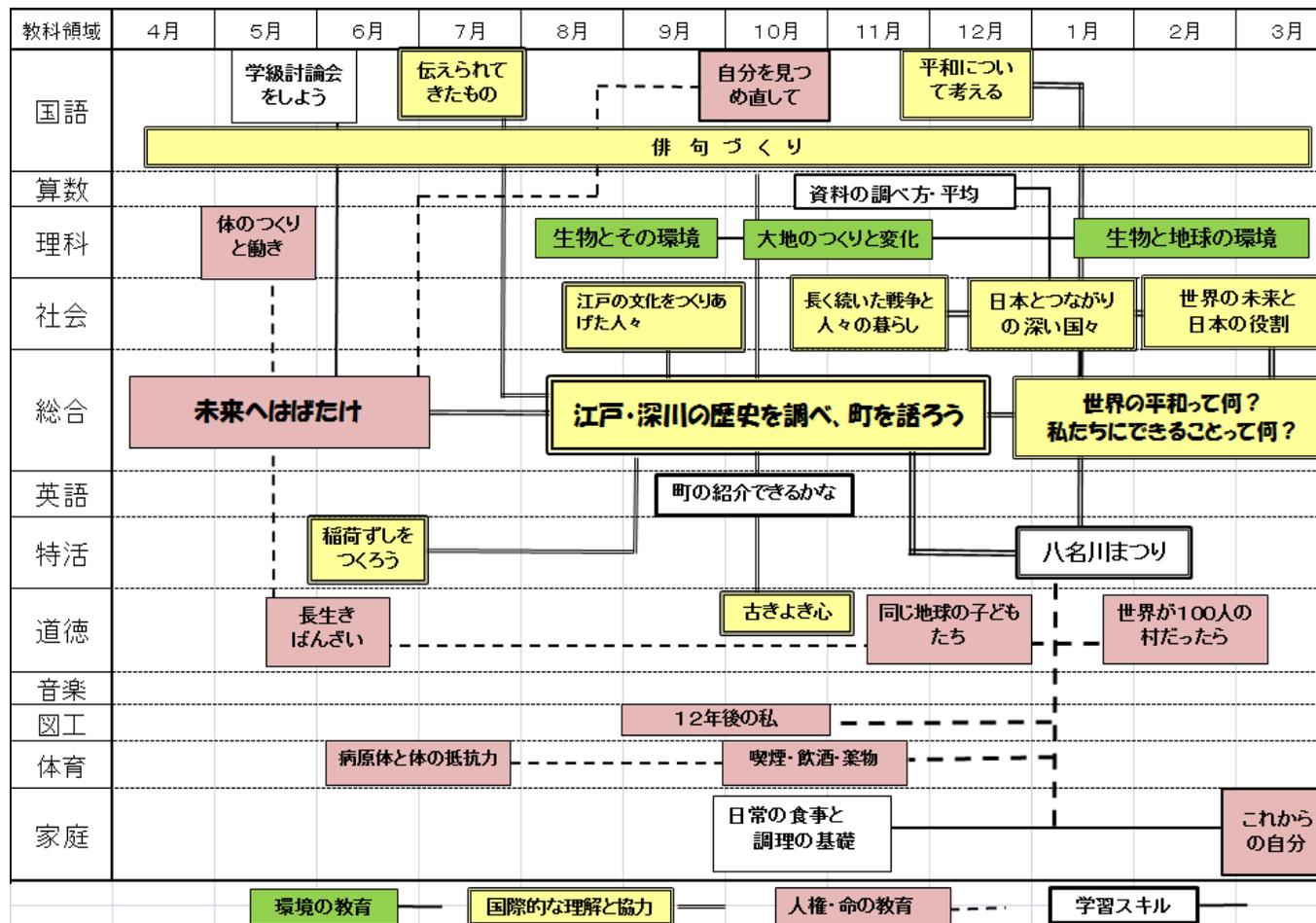
○2012年8月、日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールの質の確保を図る見地からユネスコスクールガイドラインを策定。ユネスコスクール相互間の交流の重要性、教科横断的な指導計画の必要性等を強調。

#### ◆参加資格

- 就学前教育・小学校・中学校・高等学校・技術学校・職業学校、教員養成学校、特別支援学校等(国公立を問わず)
- ユネスコの理念に沿った取組を継続的に実施していることが必要

## ④ ESDカレンダー

教科・学年を越えた体系的・総合的な指導を進めるための「年間指導計画」

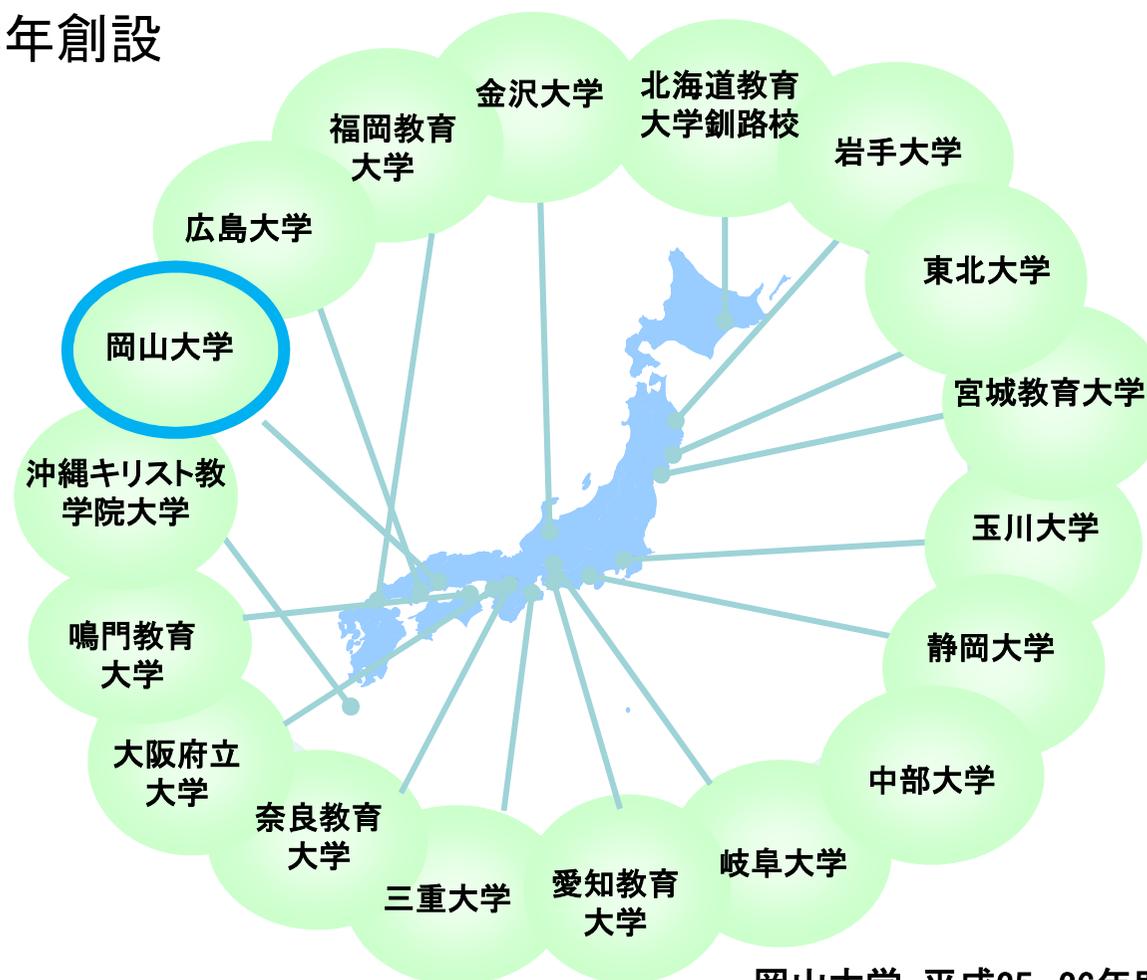


◆ 出展：東京都江東区立八名川小学校(6年生)

## ⑤ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）

18大学 ユネスコスクールに助言・支援（日本の特色ある取組）

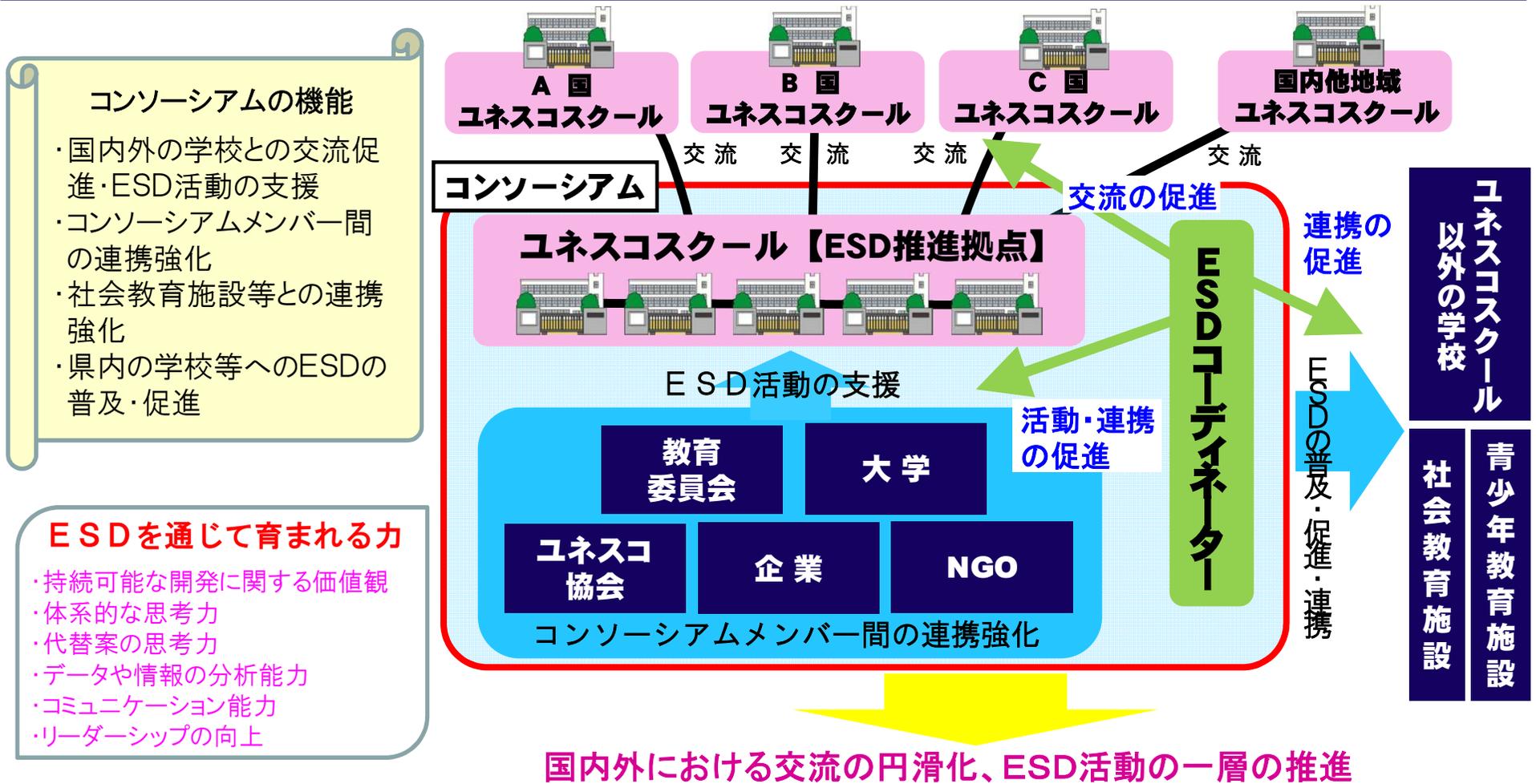
2008年創設



岡山大学：平成25、26年度ASPUnivNet事務局

## ⑥グローバル人材の育成に向けたESDの推進

教育委員会及び大学が中心となり、ユネスコ協会及び企業等の協力を得つつ、ESDの推進拠点であるユネスコスクールとともにコンソーシアムを形成し、ESDの実践・普及及び国内外におけるユネスコスクール間の交流等を促進する。コンソーシアムに置かれるESDコーディネーターにより、教育委員会、大学、ユネスコ協会及び企業等のコンソーシアムメンバーの活動・連携の促進、学校、社会教育施設等の県内でのESDに関する連携強化及び国内外における交流の円滑化を図る。



## IV ESDに関するユネスコ世界会議について

日本の提唱により始まった「国連ESDの10年」の最終年にあたる本年11月に、この10年を振り返るとともに、2015年以降のESDの推進方策について議論するため、「ESDに関するユネスコ世界会議」を我が国において開催する。ユネスコ加盟国などから、約2,000人が参加予定。

本世界会議での議論を踏まえ、「ESDに関するグローバルアクションプログラム」(※)に基づき、今後もESDを更に発展させるための政治的なコミットを確認する「あいち・なごや宣言」を採択予定。

(※)ESDに関するグローバルアクションプログラム(2013年11月ユネスコ総会において採択)

「国連ESDの10年」の後継プログラム。5つの優先行動分野((1)政策的支援、(2)機関包括的取組、(3)教育者の育成、(4)若者の参加の支援、(5)地域コミュニティの参加の促進)を定め、ステークホルダーからコミットメントという形で2015年以降の具体的な計画を収集し、2015年以降のESDの取組を推進する。

(1)愛知県・名古屋市で開催される閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合

2014(平成26)年11月10日(月)～12日(水)

11月13日(木) 国内の関係者によるフォローアップ会合開催

(2)岡山市で開催される各種ステークホルダーの主たる会合

①ユネスコスクール世界大会 2014(平成26)年11月6日(木)～8日(土)

②ユース・コンファレンス 2014(平成26)年11月7日(金)

③持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議 2014(平成26)年11月4日(火)～7日(金)



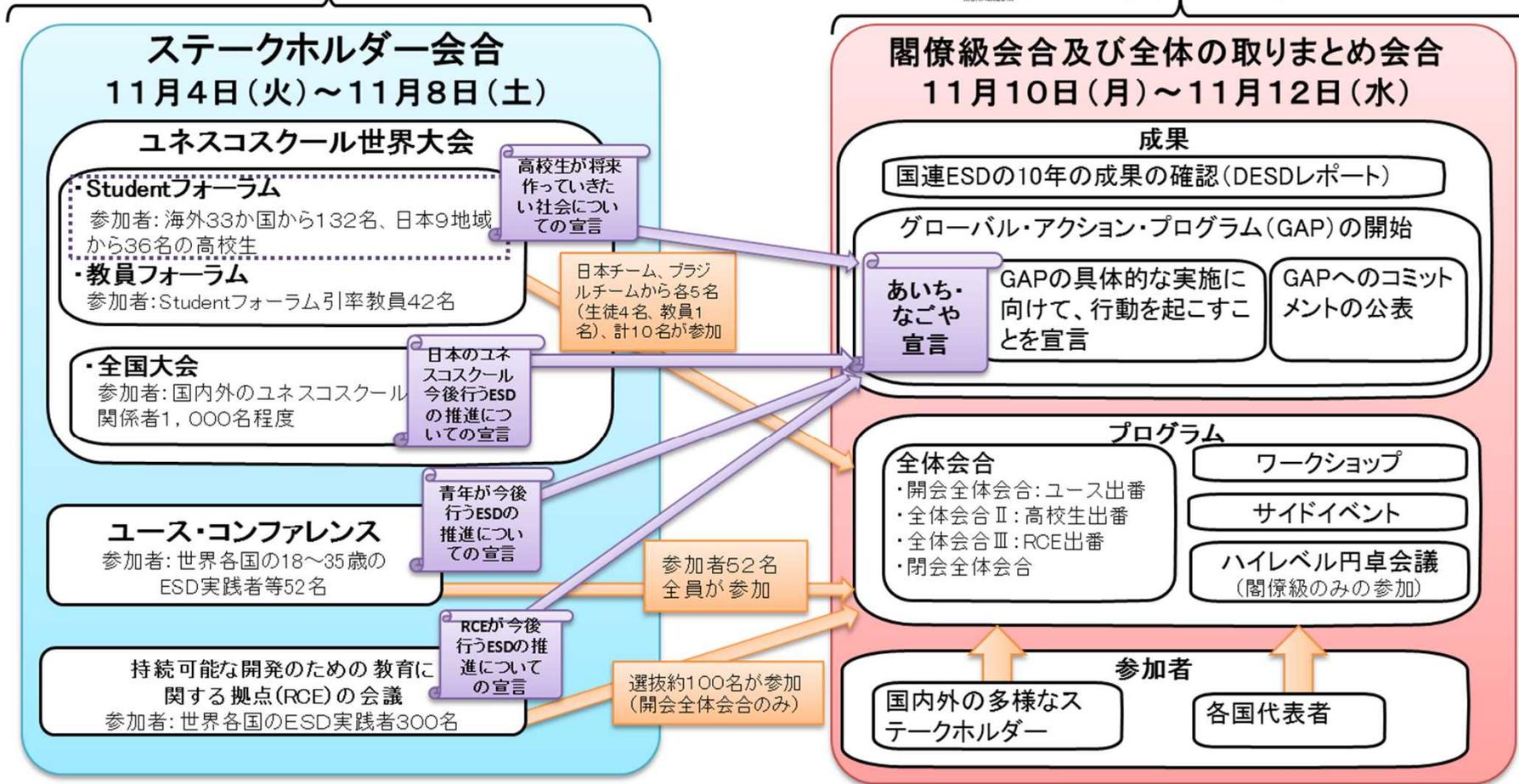
# 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議 UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development (ESD)



岡山市



愛知県名古屋市



## 持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議の日程

	10月	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13
		土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
<b>岡山市</b>	ESD 推進の ための公民館-CLC 国際 会議 (10月9日 から12日)						ユネスコスクール 世界大会	ユ・ス・コ ソファレンス						
				持続可能な開発のための教育に関する 拠点の会議										
<b>愛知県名古屋市</b>										日レ 本セ 政プ 府シ 主ヨ 催ン	閣僚級会合及び全 体の取りまとめ会 合	フ ォ ロ ー ア ッ プ 会 合		

※ESD 推進のための公民館-CLC（コミュニティ・ラーニング・センター）国際会議は、世界会議関連行事として岡山市が主催するもの

# ESDに関するユネスコ世界会議プログラム概要案

	11月9日(日)	11月10日(月)	11月11日(火)	11月12日(水)
9:00				
9:30		09:15 - 12:00 センチュリーホール <b>開会全体会合 I</b> 10年間の成果から	09:00 - 10:30 白鳥ホール <b>全体会合 II</b> 万人にとってより良い未来を築くための教育の新たな方向付け -質の高い教育に不可欠の要素であるESD	09:00 - 10:30 白鳥ホール <b>全体会合 III</b> 持続可能な開発のための行動促進 -教育を通じた持続可能な開発に関するアジェンダの強化
10:00			10:30 - 11:00 コーヒーブレイク	10:30 - 11:00 コーヒーブレイク
10:30			11:00 - 13:15 <b>ワークショップ(クラスター2)</b> 万人にとってより良い未来を築くための教育の新たな方向付け	11:00 - 13:15 <b>ワークショップ(クラスター4)</b> ポスト2014のためのESDアジェンダの策定
11:00		12:00 - 14:00 昼食	13:15 - 15:15 昼食	13:15 - 15:15 昼食
11:30		12:15 - 13:45 サイドイベント	13:30 - 15:00 サイドイベント	13:30 - 15:00 サイドイベント
12:00		12:00 - 12:30 関係者写真撮影		
12:30				
13:00		14:00 - 16:00 白鳥ホール <b>ハイレベル円卓会議</b>		
13:30				
14:00			15:15 - 17:30 <b>ワークショップ(クラスター3)</b> 持続可能な開発のための行動促進	15:15 - 17:15 センチュリーホール <b>閉会全体会合 IV</b> ポスト2014のためのESDアジェンダの策定
14:30				
15:00		16:00 - 16:30 コーヒーブレイク		
15:30		16:00 - 16:30 記者会見		
16:00		16:30 - 18:45 <b>ワークショップ(クラスター1)</b> 10年間の成果から		17:30 - 18:15 記者会見
16:30				
17:00				
17:30				
18:00				
18:30				
19:00	19:00 - 21:00 日本政府主催 歓迎レセプション	19:00 - 21:00 ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援 実行委員会主催 歓迎レセプション		
19:30				
20:00				
20:30				
21:00				

# ステークホルダー会合(岡山市)

11/4 火	11/5 水	11/6 木	11/7 金	11/8 土
<p><b>1. ユネスコスクール世界大会</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(1) Student(高校生)フォーラム</p> <p>参加者：海外33か国から132名 日本9地域から36名の高校生 会場：ホテルグランヴィア岡山</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(2) 教員フォーラム</p> <p>参加者： (1) Student フォーラム引率 教員等42名</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px; width: 60%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>(3) 全国大会</p> <p>参加者：国内外のユネスコスクール 教員等1,000名程度 会場：岡山大学 他 (※7日は講演会と交流会を開催)</p> </div>				
<p><b>2. ユース・コンファレンス</b></p> <p>参加者：世界各国の18~35歳のESD実践者等52名 会場：岡山国際交流センター</p>				
<p><b>3. 持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議</b></p> <p>主催：国連大学 参加者：世界各国のESD実践者 約300名 会場：岡山コンベンションセンター</p>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%; margin: 0 auto;"> <p>オープニングセレモニー</p> <p>主催：岡山市 会場：岡山シンフォニーホール</p> </div>				

# ユネスコスクール世界大会・ユースコンファレンスの概要

会議名称		開催日	会議概要	参加者
ユネスコスクール世界大会	高校生フォーラム	11月6-7日 (木・金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本を含む世界各国のユネスコスクールの高校生(後期中等教育学生)が一堂に会し、ESDの実践で得た成果を共有し、2015年以降のESD理念の更なる普及とユネスコスクール(ASPnet)を通じた連帯に一層の深化をもたらすこと目的とする。</li> <li>・それぞれのESDの学びの成果を背景として、自ら(高校生自身)が大人になってどのような社会を創っていくか、また自らがどう生きていくかについて、その考えを共同宣言としてとりまとめ、発信する。</li> <li>・フォーラムの趣旨から、フォーラムそのものを高校生が運営し、自律的なディスカッションを行う。</li> <li>・日本及び海外からの代表1チームがあいち・なごやでのESD世界会議に出席する。</li> </ul>	世界33か国から132名 日本9地域から36名  ※1チームは高校生4名、教師1名で構成
	教員フォーラム	11月7日(金)	高校生フォーラムに参加した国内外代表チームの引率教員42名が、同フォーラムの成果及び翌日のユネスコスクール全国大会で採択予定の「宣言」等を題材に、今後のESDの推進に果たす教員の役割等について議論する。	高校生フォーラムに引率として参加する教師42名
	ユネスコスクール全国大会	11月7日(金) (講演会) 11月8日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコスクールの関係者による全国大会。「ESDの10年」におけるユネスコスクールのESDへの取組を総括し、2015年以降の活動の更なる発展に向けた方策を議論するとともに、ESDの実践者に有益な情報・実践の共有の場とする。また、会議の成果として宣言を策定する。</li> <li>・また11月7日には、ユネスコスクール教員ほか関係者を対象として、安西祐一郎日本ユネスコ国内委員会会長による講演会を開催する。</li> </ul>	ユネスコスクール教員、都道府県・市町村教育委員会、ユネスコスクール協力者(企業・NGO/NPO・PTA・大学生・専門家等)、ESD Riceプロジェクト参加者、ASPUnivnet、国内外一般参加者等 約1,000名
ユース・コンファレンス		11月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地でESDを実践する若いリーダー達が集い、対話と学び合いを通して向上できる場を提供する。</li> <li>・若者のESD活動、特に彼らの革新的な手法を共有する。</li> <li>・ESDに関するユネスコ世界会議への提言をまとめる。</li> <li>・若者達のESDへの関与を促進し、2015年以降の行動に向けたコミットメントを促す。</li> <li>・本会議参加者は全員あいち・なごやでの世界会議に出席する。</li> </ul>	世界各国の応募者から選抜された18歳から35歳の若者52名

# V 日本における今後のESDの取組

## 多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言 ～持続可能な社会の構築を目指して～(概要)※抜粋

(平成26年3月31日日本ユネスコ国内委員会決定)

I. 若者及び企業の参加によるユネスコ活動の一層の促進 (省略)

II. 学校教育・社会教育等を通じた持続可能な開発のための教育(ESD)の一層の推進

1. 我が国の全てのユネスコスクールは、事業内容の質的向上に努めること。このためにも、国内若しくは国外のユネスコスクールとの交流事業を実施すること。また、ユネスコスクールのない県を解消するなどユネスコスクールの地域的偏在をなくすよう努めること。
2. ESDがユネスコスクール以外でも積極的に推進されるようコンソーシアムの形成、ESDに関する教員等への研修の充実、学習指導要領におけるESDのより一層の明確化、国及び地方公共団体の初等中等教育行政におけるESDの更なる推進等の施策を講じること。
3. 各個人に今後求められる資質・能力の向上にESDがどのように貢献するかを理論的、実証的に明らかにするよう、評価指標の開発等の調査研究を進めること。
4. 「ESDに関するユネスコ世界会議」において、我が国のこれまでのESDの取組や成果を発信するとともに、本世界会議終了後も上記1から3の達成に向けて、ユネスコ及びユネスコ加盟国と協働して取り組むこと。

※ 上記は、「ESDに関するグローバルアクションプログラム(GAP)」のレビューが予定されている平成31(2019)年までに達成することを目指す。



## ②ユネスコ活動及び持続可能な開発のための教育(ESD)の推進に係る通知

「ユネスコ活動及び持続可能な開発のための教育(ESD)の推進について(依頼)」(平成26年7月17日付け)においては、次のような趣旨を明記

### グローバル化が進展する現代社会に必要なこと

- 国際的な舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成
- スキルや資質・能力の向上にとどまらず、地球規模の課題にも関心を持ち、その解決に向けて自立的に考え、行動に移す力を養うこと



### 上記のためにESDは不可欠

- ESDは学習指導要領及び教育振興基本計画にあるとおり、ユネスコスクール以外の全ての学校においても推進が求められている。
- ESDを含むユネスコ活動については、これまでも「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において教育委員会の職務権限と位置付けられており、引き続き、教育委員会の職務として、ESDを含むユネスコ活動の一層の積極的な推進が求められる。
- 本通知では以下の3点について留意し、関係機関への周知、協力を求めている。

1. ユネスコ活動が多岐にわたる取組であることから、教育委員会及び地方公共団体の首長部局両者が連携を図ること
2. ユネスコスクールがESDの推進拠点としての役割を果たしつつ、ユネスコスクール以外の学校においてESDを推進するためにも、教育委員会がユネスコスクールや大学等と共にコンソーシアムを形成すること
3. ユネスコスクールは学校の国際的なネットワークであり、各ユネスコスクールにおいては、このネットワークを積極的に活用するとともに、国際交流のきっかけとすること



## VI 関連ウェブサイト

ESD ポータルサイト

<https://www.esd-jpnatcom.jp/>

ESD Facebook

<https://www.facebook.com/esd.jpnatcom/>

日本ユネスコ国内委員会Webサイト

<http://www.mext.go.jp/unesco/>

日本ユネスコ国内委員会Facebook

<https://www.facebook.com/jpnatcom/>

政府インターネットテレビ「徳光 & 木佐の知りたいニッポン！」

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8095.html>



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN